

評価段階 A よくあてはまる = 4 B ややあてはまる = 3 C あまりあてはまらない = 2 D あてはまらない = 1

	重点目標	自己評価等 ※A~Dの数値は割合						分析及び改善策等 (分析○、対策◇)	学校運営協議会委員の 御意見	
		対象	A%	B	C	D	評価			全体
確かな学び	1 分かりやすい授業に向けた手立ての工夫	児童	45	42	11	2	3.3	3.3	○ 昨年度 3.3、3.1、3.1 ave3.1 ○ 本年度は、日向市教育研究所の主導のもと「財中校区授業力プロジェクト」推進校となり、研究主題を「確かな学力とたくましく未来を切り拓く力を備えた子どもの育成」として、取り組んできた。職員一人一人が個別の課題を持ち、他校の実践例を取り入れたり、授業を互いに参観しあったりして手探りで進めている。 ◇ 個別最適な学びを推進するために、さらにタブレットドリルやデジタル教科書、ロイノートなどの積極的な活用を図る。	○ はなまる先生として授業に入らせてもらっているので、各先生方が工夫をしながら授業してくれていると感じている。 ○ 各学年で様々な工夫がなされていると思う。 ○ 研究主題をより具体化し、結果だけを求めずに、活動のプロセスも振り返りながら確実に実践につなげて下さい。また、教育研究所の実践事例等も紹介されている様です。是非、参考にしていただきたい。 ○ デジタル多様化に伴う技術の習得等先生方も大変だと思いますが有意義な学びが出来るシステムの構築をお願いする。 ○ タブレットの活用など児童が意欲的に学べる授業づくりが進められていると感じた。
		保護者	26	52	18	4	3.0			
		職員	46	54	0	0	3.5			
	2 望ましい学習習慣の定着に向けた手立ての工夫	児童	29	52	14	5	3.1	3.1	○ 昨年度 3.1、3.0、2.9 ave3.0 ○ 1の授業工夫と相まって、主体的に学習することを心がけ、対話のある授業を目指してきたことで職員の意識が上がって来ている。 ◇ 次年度も引き続き、対話のある授業に取り組む予定であり、児童の主体性を高めていく。	○ 定着には家庭の協力も不可欠だと感じるが、保護者の、学習に対する考えが二極化しているとも考えられ、課題だと思う。 ○ デジタル多様化に伴って利便性ばかり追求しすぎる事で起こりうるコミュニケーション力の低下等気がかりな一面もあるが是非、明るく対話のできる雰囲気づくりに努めてほしい。
		保護者	20	59	18	3	3.0			
		職員	33	67	0	0	3.3			
	3 家庭学習の習慣化に向けた手立ての工夫	児童	61	23	13	3	3.4	3.2	○ 昨年度 3.3、3.1、3.0 ave3.1 ○ A・B評価の合計で見ると差はないが、児童はA評価が多く、ずれが見られる。(昨年同様) ◇ 全体的に向上しているため、今後も各種学力調査や単元テストの傾向を保護者と共有し、学校・家庭が一体となって学力向上を進めるという機運を高める。	○ CRTを実施しているが、保護者が見るのは結果のみで、どんな内容で、どの問題を間違えたか不明である。CRTの結果が先生方の役に立っているのであればよい。 ○ 上の2つと同じで保護者の関わりで大きな差ができると思われる。家庭の協力がぜひ必要であると考えます。 ○ ずれの原因は、児童はただやってしまえば結果は関係なく満足評価している事。その結果に対し、保護者、先生は最終フォローのあるべき姿に課題があると感じている事だと思う。 ○ 学校、家庭と連携し、常に情報の共有化を図りながら進めていく事が重要だと思う。
		保護者	33	56	9	2	3.2			
		職員	26	57	17	0	3.1			
	4 読書習慣の定着に向けた手立ての工夫	児童	38	31	22	10	3.0	2.7	○ 昨年度 3.1、2.2、3.2 ave2.8 ○ 昨年度同様、読書については、児童・保護者・職員ともに低い評価となった。活字離れ・文章離れの進行は深刻である。 ◇ 学校での読書推進だけでなく、家庭でも読書を推進してもらおう。読書の効果について各種通信や学校HP等で分かりやすく継続的に伝えていく。	○ 「調べる習慣」を身に着ける事から実践してはどうだろうか。調べることはインターネット、本であれ必ず文字を読む事から始まるので習慣づける事で好奇心を持つようになれば、次の展開につながると思う。 ○ まずは「調べる習慣」への仕掛けづくりに取り組んでみてはどうか。 ○ 読み聞かせの導入等の検討をしてほしい。
		保護者	14	22	46	18	2.3			
		職員	22	52	26	0	3.0			
5 学校の合い言葉「かしこく」	児童	38	39	20	3	3.1	3.0	○ 昨年度 3.0、2.7、3.2 ave2.9 ○ 児童、保護者ともC、Dの評価が2~3割あり、やや低い評価となっているが、昨年度より向上している。 ◇ 昨年度より新設のため、今後も引き続き、合い言葉として浸透させる必要がある。	○ 左記、目標に対する児童への質問内容が少し難しく感じた。 もう少し、合言葉の「かしこく」を具体的なわかり易い質問内容にするにより正確な評価になると感じた。 ○ 自分の目標像をしっかりと自覚できる児童育成をお願いする。	
	保護者	9	50	36	5	2.6				
	職員	26	65	9	0	3.2				

豊かな心	1	楽しい学校生活	児童	75	19	4	2	3.7	3.5	<p>○ 昨年度 3.6、3.5、3.3 ave3.5 ○ 昨年度に引き続き高い。特に児童の評価が高い。ただし、C、Dの評価を0にしたい。また、児童・保護者と職員ではA、Bの割合に、ずれがある。 ◇ 児童一人一人が生き生きと活動できるような授業力の向上とともに教室が安全、安心と思える手だてを取り組んでいきたい。</p>	<p>○ 昨年度も、同様なずれがある評価だったと思う。評価内容の乖離が何なののしっかりと原因の分析を行っていただきたい。 ○ 誰とでも、気軽に話の出来る明るい雰囲気が大切。先生同士、児童同士、先生と児童、学校全体で明るいコミュニケーションづくりに取り組んでほしい。</p>
			保護者	68	23	7	3	3.5			
			職員	42	58	0	0	3.4			
	2	元気な挨拶や会釈の定着のための手立ての工夫	児童	50	40	8	2	3.4	3.3	<p>○ 昨年度 3.4、3.2、3.2 ave3.2 ○ 校内での会釈は低学年から高学年までよくできている。また地域での子ども達の挨拶がよくなったとの声も聞かれるようになってきた。 ◇ 「何時でも・何処でも・誰にでも」を合言葉に、委員会や登校班長会等ともリンクさせながら、児童への意識づけを図っていく。</p>	<p>○ 地域でのあいさつは小さな子までできている。今後も地域と連携した取組を期待している。 ○ 家や学校以外でのあいさつはハードルが高いようだ。地域の者として率先してあいさつをしていきたい。 ○ 私の近所の保護者の一例であるが、毎朝、「いってらっしゃい。ちゃんと大きな声であいさつをするとよー」と子供を送っている光景を見かける。 ○ 私にもしっかりとあいさつしてくれ、うれしい気持ちになる。 やはり「躰の基本(あいさつ)」は、家庭からだと改めて感じた。(寝起きのあいさつの習慣)また、あいさつMVP活動是非継続をおねがいする。</p>
			保護者	32	46	17	5	3.1			
			職員	50	50	0	0	3.5			
3	温かい人間関係づくりに向けた手立ての工夫	児童	61	30	7	2	3.5	3.5	<p>○ 昨年度 3.4、3.5、3.3 ave3.4 ○ 全体的に向上した。いじめアンケートによる振り返りや、人権教室・人権に関する体験活動等により、相手の気持ちを思いやる姿勢は育ってきている。ただし児童のC、D評価を0にしたい。 ◇ 今後も小さなトラブルの芽を見逃さず、学年・学級の問題にも組織的に対応していくとともに、児童の自己肯定感を高めていく。</p>	<p>○ 「いただきます」・自分達が生きる為に、食に携わってくれた全ての人々に感謝。 「ごちそうさまでした」・自分達が生きる為に、食として命を提供してくれた全ての動植物に感謝。 一度、言葉で伝える感謝の気持ちを再認識させ、人の痛みに気づく優しい心を育んでいく取り組みをお願いする。 ○ まわりの大人の姿をみて育つもの。親子のコミュニケーションを大切に、家庭への啓発活動を根気強く継続してほしい。</p>	
		保護者	62	35	2	2	3.6				
		職員	42	58	0	0	3.4				
4	規範意識や思いやりの心、基本的な生活習慣(スリッパ並べ、廊下歩行等)の定着	児童	56	34	8	2	3.4	3.3	<p>○ 昨年度 3.5、3.3、2.7 ave3.1 ○ 児童と保護者・職員のA・B評価にずれが見られるが、全体的に上がった。 ◇ 引き続き、職員間での到達目標を再度構築し、組織的に対応していく。また学校内外での過ごし方は家庭との連携が不可欠。同じベクトルで互いに協力して進める。</p>	<p>○ 家庭環境は、各家庭異なるので学校外となると非常に難しい問題だと思う。理想的な過ごし方はあるのだから、学校としては、出来る範囲の支援でよいと思う。基本的な生活習慣の定着は、各家庭に委ねるしかないと思う。</p>	
		保護者	32	61	7	1	3.2				
		職員	22	70	4	4	3.1				
5	特別支援教育の充実	児童	/	/	/	/	/	3.1	<p>○ 昨年度 /、3.0、3.3 ave3.1 ○ 特別支援教育の内容や実際は、保護者にはなかなか見えづらい。 ◇ 新入児保護者説明会でお知らせの機会を設ける。また職員向けの特別支援教育だよりを保護者に配付し啓発していく。</p>	<p>○ 特別支援教育に関する取組が進められているものの内容が保護者に伝わりにくく感じる。丁寧でわかりやすい説明をお願いする。 ○ 見える化への工夫をお願いする。</p>	
		保護者	23	53	19	5	2.9				
		職員	33	67	0	0	3.3				
6	無言清掃	児童	61	31	6	3	3.5	3.5	<p>○ 昨年度 3.4、/、3.4 ave3.4 ○ 児童、職員ともに同様な傾向にあり、A評価が上がっている。昨年度途中から縦割り清掃班にし、上学年と掃除をすることによる効果もあったと言える。 ◇ 今後も高学年のリーダーシップを活用し、C、Dゼロを目指す。</p>	<p>○ 無言清掃は財中でも徹底しており、好ましいことである。 ○ 縦割りの取組はよいと思う。異学年の仲もよくなったように思う。 ○ 縦割り活動は大切だと思う。継続していただきたい。 ○ 活動の継続をお願いする。</p>	
		保護者	/	/	/	/	/				
		職員	63	29	8	0	3.6				

健康・安全	7	学校の合い言葉「あかるく」	児童	58	33	7	2	3.5	3.3	<p>○ 昨年度 3.5、3.0、3.2 ave3.2</p> <p>○ 全体的に良い傾向であり、昨年度より全体的に上がっている。児童・職員と保護者のA、Bは逆になっており、ずれがある。また、保護者のC、Dは下がった。</p> <p>◇ 本領域1同様、授業力を高めるとともに、特別支援教育の視点からの指導を大切し、実践していく。</p>	<p>○理想像は、いつも笑顔で、自分の気持ちを正直に表現できる事だと思う。その為には、家庭、学校と明るい雰囲気づくりが重要と考える。また、目標を持たせ、前向きな気持ちを与えてやる事も大切だと思う。まずは、保護者、先生としてキッカケづくりに努めてほしい。</p>
	保護者	27	59	11	3	3.1					
	職員	54	38	8	0	3.5					
	1	運動や戸外での運動遊びの奨励	児童	72	18	6	3	3.6	3.3	<p>○ 昨年度 3.4、3.2、2.8 ave3.2</p> <p>○ 引き続き児童のAがかなり高い。職員はB評価が高いが、A・Bの合計評価はどちらも9割を超える。</p> <p>◇ 授業においては、スクールスポーツプランをもとに計画的・継続的に運動に取り組みせるとともに、運動量の確保をしていく。</p>	<p>○学習と同様、がんばりの可視化がモチベーションにつながるので継続をお願いしたい。</p> <p>○運動の楽しさを教えてやる事が大切だと思います。全員で参加し、ゲーム感覚で楽しめる運動を取り入れたらどうでしょうか。また、インストラクター等のスポーツ教室の開催も計画したら良いと思います。保護者の書き込みに昼休み時間の事が記載されていました。少し気になりました。</p>
	保護者	41	41	14	5	3.2					
	職員	35	57	9	0	3.3					
	2	早寝・早起き・朝ご飯の定着に向けた手立ての工夫	児童	49	29	14	8	3.2	3.2	<p>○ 昨年度 3.2、3.4、3.0 ave3.2</p> <p>○ 割合としては大きな変化はないが、全体的にC評価がやや増えており、注意が必要。</p> <p>◇ 保護者との連携を密にし、時には面談等も取り入れながら望ましい生活リズムの確立を促す。</p>	<p>○健康リズムの確立は保護者の責任であり、他者が口出しすべきではないが、次項3を含め、学校で教えてあげられないか。</p> <p>○先生方に生活リズムの定着までの指導は難しいと思う。職員のC評価が多いのは仕方ないと思う。</p> <p>○保護者も忙しく、食事を作る時間もままならず利便性を求め、コンビニに頼り、家族揃っての食事、会話がなくなってきている事も1つの原因と思う。決して子供だけの問題とせず、親としてやる事を自覚してもらう事しかないと思うが・・・?</p>
	保護者	45	45	8	2	3.3					
	職員	26	52	22	0	3.0					
	3	給食指導や弁当の日の取組による望ましい食習慣の育成	児童	50	34	11	5	3.3	3.1	<p>○ 昨年度 3.3、3.2、3.2 ave3.2</p> <p>○ 昨年度とさほど変わらないが、保護者・職員のC評価がやや増えており、注意が必要。</p> <p>◇ 食べる量やバランスを考えさせながら、授業や日常の指導に取り組む。</p>	<p>○学校での取組は十分行われていると思う。</p> <p>○学校給食会に専属の管理栄養士の方々がおられると思います。定期的にその方々によるわかりやすい食に関する特別授業を開催したり、給食時に実際に訪問していただき、児童の食について話を聞いたりする機会を設けていくと良いのでは。</p>
	保護者	31	42	20	6	3.0					
	職員	29	58	13	0	3.2					
	4	避難訓練、交通安全教室等、安全教育の充実	児童	67	23	6	3	3.6	3.4	<p>○ 昨年度 3.6、3.0、3.5 ave3.4</p> <p>○ 避難訓練や避難練習は計画的に実施したが、様々な状況に対応できるような訓練にはなっていない。</p> <p>○ 本年度は地域も参加型の練習を実施できたが、市の訓練も同時期にあり、検討が必要。</p> <p>◇ 「災害はいつどこで起こるか分からない」という視点に立って、新しい訓練方法を取り入れていくなどの検討が必要である。</p> <p>◇ 非常時引渡し訓練も行う。</p>	<p>○学校で防災マニュアルとして対応に見合った訓練手順等を策定し定期的な訓練教育を行う事も一つの方法だと思います。</p> <p>○避難の3原則、①:想定にとらわれない②:最善をつくす③:率先避難者であれ(釜石の奇跡からです。参考までに。)</p> <p>○今回の保護者への質問内容、評価結果を見る限り、家庭で命を守る為の話をする事が非常に重要だと感じました。</p>
	保護者	22	57	20	2	3.0					
	職員	58	38	4	0	3.5					
5	学校の合い言葉「たくましく」	児童	53	34	9	4	3.4	3.3	<p>○ 昨年度 3.4、3.0、3.0 ave3.1</p> <p>○ A、B評価を合わせるといずれも8割を超えている。</p> <p>◇ 困難に耐え、そして立ち向かう心のたくましさ、健康面でのたくましさを伝え、それに向かって進む指導の工夫が必要である。</p>	<p>○失敗を恐れずに挑戦できる環境づくりが大切だと思います。その為には、目標を持たせ失敗しても子供に寄り添って話を聞いてやる事が重要となる。また、人の痛みが分かる優しい心、規則正しい生活習慣の植付け(躰)も必要かと思う。</p>	
保護者	22	64	12	3	3.0						
職員	50	46	4	0	3.5						

連携等	1	将来に夢をもち、地域を大切にすること	児童	38	37	15	10	3.0	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本年度、質問内容を少し変更。 ○ 保護者も職員もC、D評価が1～3割ある。 ◇ キャリアパスポートを活用しつつ、「キャリア教育の視点」での学習にも注力する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在の多様化する社会においてキャリア教育は不可欠と考える。パスポートの活用も含め、保護者へしっかりと目的を伝えてもらいたい。
			保護者	14	53	29	5	2.8			
			職員	30	61	4	4	3.2			
	2	学校経営や教育活動等についての情報発信	児童	/	/	/	/	/	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度 /、2.9、3.1 ave 3 ○ 保護者の評価が高い。学校通信、学級通信、学校HP、安心メールと情報発信は定期的に行っている。ただし、保護者の具体的な反応はあまりつかめていない。 ◇ 今後も定期的に発信するとともに、ご意見などをいただきながら発信内容を見直し、充実・改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先生によっても違うが、学級だより、学年だよりを読む機会が多く、楽しみにしている。 ○ 情報発信、共有は重要な事です。保護者の反応にとらわれず継続して下さい。発信内容については、見出し等を工夫しわかりやすい文章にするなど興味を持たせる工夫をしたらどうでしょうか。
保護者			43	47	9	1	3.3				
職員			30	61	9	0	3.2				
3	参観日・学校行事の計画的実施と内容の充実	児童	/	/	/	/	/	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度 /、2.9、3.1 ave 3 ○ 保護者、職員ともおおむね良い。ただし、参観や学級懇談の出席率がよくない。また、参観授業に来て、廊下で話していることが多い保護者の様子も見られる。 ◇ 児童の活発な様子が見られる参観授業の工夫や、保護者同士や保護者と担任がしっかり向き合って話せるような学級懇談会づくりをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 参観や学級懇談に来ない、参加しない理由は何か。親の意識改革も必要。改善を望む。 ○ 保護者の評価としてはおおむね良い評価で、出席率が低い理由を知るためにアンケートを取ってみたいかがだろうか。 ○ 学級懇談については、保護者が懇談に何を求めているのか事前アンケート等で把握し、懇談においては、全員がリラックスして参加できる形式(例えば:アイスブレイク等)、取り入れてはどうか。 ○ 本年度は、授業参観を拝見する事が出来なかったが、参加された運営委員の方に「授業内容も工夫され、児童もいきいきと授業をうけていた」と話を聞いている。 	
		保護者	38	55	6	2	3.3				
		職員	22	78	0	0	3.2				
4	「自分もみんなも楽しく」をめざした手立てや働きかけ	児童	68	22	7	4	3.5	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度 3.7、3.0、3.3 ave3.3 ○ 全体的に高い評価だが、児童と保護者・職員の傾向にずれがある。指導者側との視点の違いであると考えられる。 ◇ C、D評価が0になるよう、授業や児童の主体的な活動を充実させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者への質問が「保護者としても・・・」保護者自身の立場でどうなのかの問いにA評価が最も低い点に関心が薄いのではないかと少し気になった。 ○ 基本は、明るい家庭、学校環境づくりだと思う。笑顔、会話の絶えない前向きな取組をお願いする。 	
		保護者	23	61	15	1	3.1				
		職員	42	50	8	0	3.3				
小中一貫教育	1	小中一貫の取組の理解	児童	/	/	/	/	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度 /、3.2、3.2 ave3.2 ○ 本年度、授業力向上プロジェクトを中心にしたため、小中一貫の取組に多くの時間を取れなかった。 ◇ 次年度もプロジェクトは残るので、学校通信、学級通信等で啓発は続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の取組は、よく知っている方だと思うが、小中一貫については知る機会がなかった。職員もDの評価があるのでまずは学校内での取組を広めていってはどうか。 ○ 根気強く啓発を続けていただきたい。 ○ メディアコントロールだけに頼らず資料配布等、PR活動を広げてほしい。また、取組の基本方針である「知・徳・体」に体+食(育)も検討出来ればお願いしたい。 	
			保護者	24	46	22	8				2.9
			職員	33	54	8	4				3.2
	2	「自主自立の財っ子」	児童	/	/	/	/	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度 /、2.7、2.9 ave2.8 ○ 上記1と同様に多くの時間を取れない。 ◇ 次年度もプロジェクトは残るので、職員の意識を高めるとともに、通信やHP等でアピールをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「自主自立の財っ子」=小中一貫で目指す児童像であるのでビジョンが理解できるよう具体的な方針を明確にしていきたい。 	
保護者			8	61	26	5	2.7				
職員			21	58	17	4	3.0				